

# 持続的に発展できる地域農業の推進

河内農業振興事務所経営普及部

河内地域の地域戦略 「伝えよう、つなげよう！河内地域の農村活力向上」  
普及指導計画の戦略課題名 「持続的に発展できる地域農業の推進」

【キーワード：栃木県環境負荷低減事業活動実施計画、バイオ炭 活動期間：令和4年～（継続中）】

## 抄録

- ・「とちぎグリーン農業推進方針」に基づき、関係機関と連携しながら、各種施策の推進に取り組んでいます。
- ・栃木県環境負荷低減事業活動実施計画の認定について、農業者に対して説明を行い、理解促進を図ったところ、113戸の認定に結びつきました。
- ・未利用資源（もみ殻の活用推進のため、展示ほを設置し、もみ殻くん炭の施用による炭素貯留技術の検討及び効果について農業者に働きかけるとともに、バイオ炭の消費者に対するPRを図りました。

## 1 取組の背景・ねらい

令和5年3月に策定された「とちぎグリーン農業推進方針」に基づき、取組方策の普及推進を図るため「県推進方針に基づく計画認定（以下 みどり認定）推進」及び「バイオ炭取組推進」の2つの推進課題に取り組みました。

## 2 活動対象

### (1) 対象名

管内農業者、JA 専門部、環境保全型農業取組者

### (2) 対象の概要

管内では、130名が環境保全型農業直接支払交付金を活用し、環境保全型農業に取り組んでいます。

## 3 活動の内容

### (1) 指導・支援の体制

技術担当と経営指導担当が、経営技術課、農業試験場、JA うつのみや、宇都宮市、上三川町と連携しながら指導・支援を行っています。

### (2) 活動経過

#### ア 県推進方針に基づくみどり認定推進

JA うつのみや専門部（梨、にら、水稻、いちご、アスパラガス、トマト、プロッコリー他）の現地検討会等において内容を説明し、農業者の理解促進を図り、みどり認定計画の作成を支援しました。



写真1 みどり認定通知書授与

## イ バイオ炭取組推進

展示ほを設置し、農業試験場とともに生育調査・収量調査・食味試験等を行いました。

JA うつのみやと連携し、水稻生産者を対象とした栽培講習会において、もみ殻くん炭の施用による炭素貯留技術について周知を図るとともに、もみ殻くん炭の施用に関するアンケート調査を実施し、農業者の現状と意向を把握しました。

また、宇都宮市と連携し、「農林業祭」（令和5年11月18日 宇都宮市・JAうつのみや共催）に出展し、テストマーケティングと併せて消費者へのPRを行いました。

## 4 活動の成果

### (1) 環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）

農業者の理解促進を図った結果、梨生産者95戸、りんご生産者18戸の計画を認定しました。

### (2) 展示ほ及び消費者へのPRの結果

水稻現地検討会等において本取組を水稻生産者270名に周知することができました。また、135名からアンケートを聴取した結果、もみ殻くん炭の施用におよそ6割の生産者が関心を持っていることが確認できました。

また、デジタルコンテンツを作成し、事務所 SNS 等で消費者への事業内容のPRを実施しました。

## 5 今後の課題と方向

### (1) 計画の認定（みどり認定）拡大に向けた理解促進

現地検討会等で農業者の計画認定に対する理解促進を図るとともに、新規認定に向けて、JA 専門部及び市町と連携し、さらなる推進を図ります。

### (2) バイオ炭の施用に関する検討と施用面積の拡大

今年度の展示ほの結果を検証するとともに、次年度も設置し、散布作業の効率化に向けて、他の散布機械を用いた検討を行います。また、アンケート調査の結果を踏まえて、もみ殻くん炭の施用に関心のある農業者に対して推進を図ります。

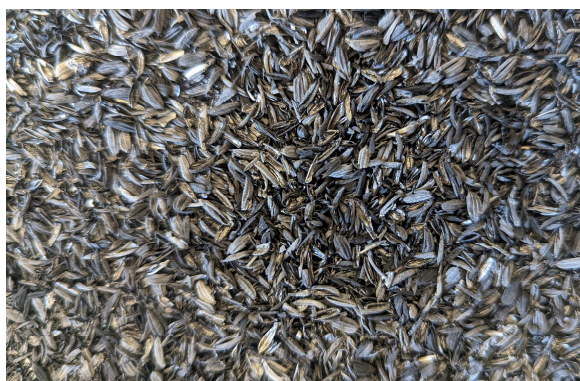


写真2 バイオ炭（もみ殻くん炭）



写真3 ライムソワによるバイオ炭の散布

# 持続的な地域農業の構築

上都賀農業振興事務所経営普及部

上都賀地域の地域戦略 「持続可能な上都賀地域の農業・農村の形成」  
普及指導計画の戦略課題名 「持続可能な地域農業の構築」

【キーワード：みどり認定 環境負荷低減事業活動 活動期間：令和3年～令和7年（継続中）】

## 抄録

- ・農場点検の実施を支援することにより、GAPの取組についての理解促進が図られました。
- ・環境にやさしい栽培技術の実証を行うために展示ほを設置し、地域への波及を図りました。
- ・「とちぎグリーン農業推進方針」の実現に向けて、農業者や関係機関との連携により、地域ぐるみでの取組を支援しました。

## 1 取組の背景・ねらい

農業における「農産物の安全」「環境の保全」「作業者の安全」を確保し、経営体の経営改善を図るため、農場点検の実施により各農場でのリスク管理を行いGAPの取組を支援しました。

また、とちぎグリーン農業推進方針の実現に向けて、環境にやさしい栽培技術の実証・普及を図るとともに、農業者及び関係機関の理解を促進し、環境負荷低減事業活動の取組を支援しました。

## 2 活動対象

### (1) 対象名

JA生産組織、直売所運営組織、認定農業者、エコファーマー、実証展示ほ農家

### (2) 対象の概要

GAP関係：JA生産組織（16組織）、直売所運営組織（17組織）

グリーン農業：R5年度経営改善計画認定農業者の更新予定者（91戸）、  
エコファーマー認定者（149名）実証展示ほ担当農家（6戸）

## 3 活動の内容

### (1) 指導・支援の体制

GAPについて、JA生産部会への支援は部内連携によりJAに働きかけを行い、直売所への推進は企画振興部と連携を図り支援しました。

グリーン農業は、所内で「グリーン農業推進体制」を整備し、市や農協など関係機関を対象に「グリーン農業推進会議」を開催し連携体制を整えました。また、経営普及部各課の品目担当と、グリーン農業の展示ほの調査、環境負荷低減技術の確認など連携を図りました。

### (2) 活動経過

#### ア 農業生産組織へのGAP農場点検実施の推進

JA生産組織においては、推進する部会を選定するところから各課担当及びJA部会担当者と打合せを行い、農場点検の実施を支援しました。直売所運営組織に対しては、企画振興部と連携の上、全直売所17カ所の巡回によりGAPへの理解促進を図りました。併せて直

売所 GAP に関する研修会を開催し、6 組織が参加しました。

## イ グリーン農業の推進

### ① 環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）推進

制度の説明を認定農業者だよりへ掲載し広く周知を図るとともに、市の協力により認定農業者の再認定通知へ事務所作成の PR 資料を同封することで推進しました。また、エコファーマー認定者（149 名）宛て「みどり認定」についての案内を各課担当・JA 営農指導員と連携して送付し、これを契機に個人や生産組織からの問合せがあり、個別巡回による対応（5 件）やグループ申請に向けた説明会（2 組織）を行いました。

### ② 地域に適した環境にやさしい栽培技術の実証・普及

トルコギキョウの低濃度エタノールによる土壌伝染病害対策、夏にらの紫色 LED と防虫ネットによる害虫防除、なし剪定枝の炭化実証に関する技術実証展示ほを設置し、みどりの食料システム戦略技術の普及を図りました。

## 4 活動の成果

### (1) GAP への理解促進

JA 生産組織では、農場点検デモンストレーションを行ったところ、GAP への理解が深まり、具体的なリスク管理について部会員同士の意識統一が図られました。また、直売所運営組織への GAP 研修会参加者からは「できるところから始めて農産物の質を高めていきたい」との声も聞かれました。

### (2) グリーン農業の推進

#### ア 環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）推進

##### ① 環境負荷低減技術の理解促進と「みどり認定」申請

R5 年 7 月には鹿沼市のいちご生産者を県内第 1 号として認定し、日光市においても県内第 2 号として認定しました。県内第 1 号の認定者からは「これを契機に環境負荷低減と収益性向上の両立に向けて、一層の努力をしていく」との力強い意思表示を頂きました。

##### ② 地域に適した環境にやさしい栽培技術の実証・普及

トルコギキョウの低濃度エタノールによる土壌消毒効果及びなし剪定枝の炭化技術について効果が実証されました。夏にらの紫色 LED と防虫ネットによる害虫防除についてはマニュアルを策定し技術の普及を図り、今後導入農家の拡大が期待されます。

## 5 今後の課題と方向

### (1) GAP への理解促進

GAP の理解促進により、JA 生産組織及び直売所運営組織のリスク管理の向上を図ります。

### (2) グリーン農業の推進

みどり認定は、グループ申請に向け、生産組織を対象に認定推進を行います。また、地域に合わせた技術を選定し展示ほを設置することで、みどりの食料システム戦略技術を普及します。



写真1 直売所へのGAP研修会



写真2 実証展示ほ現地検討会



写真3 みどり認定第1号

# 未来へつなぐ環境保全型農業の推進

下都賀農業振興事務所経営普及部

普及指導計画の戦略課題名 「未来へつなぐ環境保全型農業の推進」

【キーワード：GAP 環境負荷低減 有機農業 活動期間：令和3年～令和7年（継続中）】

## 抄録

- JA 生産部会等による組織ぐるみの GAP 精度向上の取組を推進し、4 組織において農場点検及び改善を行いました。
- 3名の意欲ある個人出荷者が新規にとちぎ GAP 第三者確認を取得しました。
- 有機農業推進アドバイザーが栽培する水稲ほ場の調査を実施し、技術資料としてまとめ、新規に水稲の有機栽培を始める生産者への指導に活用しました。

## 1 取組の背景・ねらい

持続可能な農業の実現のため、GAP の重要性は高まっていますが、その取組内容や理解の程度は生産者によりばらつきがあります。また、国による「みどりの食料システム戦略」の策定を受け、有機農業を始めとした環境負荷低減の取組目標が掲げられるなか、生産者が有機農業を体系的に学ぶことができる機会が、より一層求められています。

そこで、産地の信頼を維持するため、GAP の精度向上に取り組みます。加えて、有機水稲の栽培技術の体系化を目指します。

## 2 活動対象

### (1) 対象名

JA 生産部会、直売所生産部会、農業者・団体等

### (2) 対象の概要

JA 生産部会（35 部会）、直売所生産部会、個人出荷者等の農業者、有機農業実践者等

## 3 活動の内容

### (1) 指導・支援の体制

#### ア GAP の精度向上

GAP 農場点検や農薬の適正使用の啓発を JA 生産部会等に対して推進するため、JA、生産部会員及び各品目担当との連携のほか、直売所に対しては企画振興部と連携しました。

#### イ みどりの食料システム戦略の推進

小山市有機農業推進協議会との連携のもと、有機水稲ほ場の現地調査を行い、調査結果及びデータについては、有機農業推進アドバイザーの協力を得て考察をまとめました。

### (2) 活動経過

#### ア GAP の精度向上

生産工程管理の見直しが生産部会全体の取組となるよう、農場点検により部会員同士の相

互点検や情報共有を図りました。個人出荷者等に対しては、とちぎ GAP の第三者確認取得のための GAP 指導を実施しました。農薬の適正使用に向けては、生産者が実施すべき事項を JA 広報誌へ掲載したほか、直売所組織への研修会を実施しました。

#### **イ みどりの食料システム戦略の推進**

小山市有機農業推進協議会と連携し、3名の有機水稻新規栽培者のほ場巡回により、生育状況の確認と情報共有を行いました。また、有機農業推進アドバイザーの協力を得て、ほ場調査や抑草等の栽培技術の情報収集を行いました。

### **4 活動の成果**

#### **(1) GAP の精度向上**

##### **ア 組織ぐるみの取組による GAP 精度の向上**

JA 生産部会2組織において農場点検を実施し、改善点等を部会員に共有しました。JA しもつけ苺部会栃木支部（49戸）及び都賀支部（45戸）では、団体で新規にとちぎ GAP の第三者確認に取り組み、確認証の交付を受けました。

##### **イ 個人出荷者等によるとちぎ GAP 第三者確認の実施**

意欲ある農業者に対し農場点検を支援したところ、令和3年度1名、令和4年度2名が新規にとちぎ GAP の第三者確認に取り組み、確認証の交付を受けました。

##### **ウ 直売所組織への農薬適正使用ルールの周知**

全直売所組織を対象とした農産物の安全・安心対策研修に加え、農薬適正使用の指導を希望する直売所組織に対し、合計3回の研修会を開催しました。

#### **(2) 水稻における有機栽培技術の可視化**

有機農業推進アドバイザーが栽培する水稻ほ場の調査や、水管理及び抑草技術についての聞き取りを行い、技術資料にまとめました。オーガニックビレッジ宣言により、有機農業取組面積と生産者の拡大を目指している小山市有機農業推進協議会と連携し、研修会や現地検討会の場において新規有機水稻生産者の指導に活用しました。

### **5 今後の課題と方向**

#### **(1) 組織ぐるみの GAP 精度向上の実施拡大**

JA 生産部会のうち農場点検未実施の部会や、GAP チェックシートの未整備の部会に働きかけ、生産部会の意向や取組レベルに応じて、少しずつでも向上できるよう支援します。

#### **(2) 水稻有機栽培技術の体系化**

栽培技術について可視化した技術資料をもとに、実証展示ほを設置し、普及性の評価と技術の体系化を図ることにより、有機水稻栽培に新規に取り組み生産者の取組拡大を支援します。

#### **(3) とちぎグリーン農業の推進**

令和5年3月に策定されたとちぎグリーン農業推進方針に基づき、環境負荷低減技術の導入促進及びみどり認定の推進、有機農業取組面積の拡大と併せて、市町によるグリーン農業推進協議会の設立やオーガニックビレッジ宣言の支援に取り組みます。